

リイド社

八月薰全集



第6卷 「寝取られる男たち」

EP01
変態に濡れた貞淑妻



八月薰全集 第6巻

「寝取られる男たち」

contents

- 変態に濡れた貞淑妻……3
- 婚約者の意外な性癖……19
- 妻の陰部……35
- 良妻の淫らな陰部……51
- T大学のサセ子の噂……67

変態に濡れた貞淑妻

半年前
初めて彼女に会った時の
印象は電話で話した
イメージとはちがいで

彼女は
テレクラは
初めてで

結婚して以来
旦那以外の男に会うのは
初めてだったらしい。

俺たち2人は
付き合い始めた当初は
どうした?
早くこっち来いよ。

地味で貞淑な
奥さんといった
感じだった。

たまに会っては
セックスをする
普通の不倫カップル
だったのだが—

ええ…
でも…

彼らだって
見られたがって
るんだ。

気後れし
あまり乗り気じゃない
彼女に、俺は
ガツカリしていた。

ほら
あそこのカップル
今始まった
ばかりだ。

俺がそういうヤツ
だと知ってて
彼女も俺と付き合った
はずなのに…

彼女とは
変態的なことを
したいと、日ごと
から思っていた。

やっぱり
こいつも
普通の女。

そう思って
いたが。

俺は44歳の
バツ一会社員。

もうこんなに
濡らしてるのか。

早く入れて
欲しいから…

だって…

彼女は45歳の人妻。
テレクラで知り合い互いの
変態性に魅かれ
付き合い始めて半年になる。

まだ
おあすけだ。
それまで
これで我慢
してな。

あう
あう

は…う
ああ

月に2回
こっしで
会っている。



やっぱりこいつは
変態だ！

彼女のアソコは
くっちより
濡れていた。



はっ…

こんな貞淑ぶ
つた顔をして



人は見かけによらない
と言っが、彼女はまさに
そんな感じだった。

カッパル
喫茶

彼女の変態性を
確信したオレは
翌日、彼女の興奮が
さめる前に行きつけの
カッパル喫茶に
連れて行った。

なに
この店。

なんだか
こわいわ…
そう言いながらも
彼女の期待に満ちた
顔つき。



カッパルの行為が
進んでいくにつれ
しだいに彼女の
様子も変わって



彼女は
身を乗り
出して



真剣な目で
カッパルの行為を
見つめ始めたのだ。



あ…

や…
だめ
はすかしい。



悪かった…

いきなり
あんな所へ
連れて行って…
もう少し
考えるべき
だった。



ううん
大丈夫…

すると
彼女のアンコは下着が
染みるほどくっしより
濡れていた！



？

彼女の
荒い息つかい



彼女はあの場でも
感じていたのだ！

まさか…

俺は
彼女の下着の中へ
手を入れてみた。



相手が
気に入らなければ
断ればいい。



よろしいで
すか？

どうぞ。

あ…え…

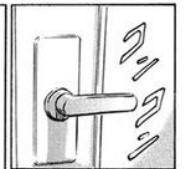
あつ

旦那と俺以外
男を知らない彼女が
感じさせられる姿を
見たかった。



おい。

変態に濡れた貞淑妻







攻められ続け
快感に
身悶える彼女
を見ているうち

だが…

そこ、だめ
ああ…

んあ
イキそう

おお
出る…
中に
出すぞ

俺の中に
強烈な嫉妬心
が湧き上がってきて

う

ああ

よかったよ
奥さん。

あう！

そんな…
ああ

俺はこの時
最高の興奮を
味わっていた。

彼に見られて
こんなに感じてる
なんて

お前は
淫乱な
メス豚だ！

俺の目の前で
快感に乱れる
彼女。

それを眺め
ながら
俺は



EP02
婚約者の意外な性癖





なんと
彼女も俺のことを
気に入ってくれた
みたいで

俺は
それはもう
飛び上がる程
嬉しかったです

そつして交際が
始まったんです
が……



交際も
1カ月ほど
経った時



彼女と
初めてエッチを
したんです

彼女の
みことな
身体に
俺は
大興奮

弘美さん
ギンギンに
勃って
精力は
ばっちり
でした



ですが
彼女の反応は
いまいちで

感じているようには
全然見えなかったん
です

うっ
気持ちよく
なかった？

いえ そんなこと
緊張してた
だけ……

俺は
その時は
その言葉を
信じました



俺は田中裕二(仮名)
41歳のサラリー
マンです

ごめん
待った？



結婚を前提に
つき合いはじめて
3カ月になります

どこに
行こうか
おまかせ
します



写真では
拝見して
いたんですが



彼女は大田弘美(仮名)
39歳のバツイチ
子供はいません

実際に会ったらずごく
綺麗で清楚な女性だっ
たんです

こんな女性に出会える機会なんて
もつないと思っていました
このチャンス絶対逃したくない



こういう場所なら
彼女も少しは
燃えてくれると
思っただんです

誰かに見られてる
かもしれないこの
スリングさ

はっ
はっ
はっ

俺はごも
興奮しました

あ...



でも...



結果は
同じでした

なにか飲み物
買ってくるよ

少しは感じて
くれたように
見えたんですが



エッチに夢中で
気づかなかったん
ですが

俺たちの他に
ワゴンが1台
停まっていたん
です

気持ちいいエッチ
してんだろな
.....

その時は
そう思ったくらいで
あまり気にしな
かったんです



その後も彼女と
何度かエッチを
しました
彼女は気を使って
多少感じた
フリをしてくれ
るんですが

興奮してる
俺に反して
彼女の反応は
どう攻めても
いまいちだった
んです



俺のテクニク
が悪いのか
彼女が
不感症なの
か.....

俺は
彼女のことを
よくわから
なくて
型通りの
エッチしか
できなく
なっちゃっ
たんです



この先の結婚にも
不安を
感じました
でも
綺麗で身体も
バツグンの彼女を
手放すには
もったいなくて

彼女も
俺と結婚したい
と言ってくれて
いて.....



彼女の反応の
純さだけが唯一の
不満だったんです



弘美さん

彼女は
拒みま
せんでした



すると
中には数人の
襲く姿が……

え!?

俺は目を疑いました

3P?
4Pか……?

んん……

数人の男に
まさぐられている女は
俺の彼女にそっくり
だったんです



まさか
うそだろ

あの服
あの下着



間違いない
弘美さんだったんです

ああっ



なにもない公園で
自販機を見つげるのに
けっこう時間がかかって
しまいました



30分くらい
経ったでしょうか

辺りを見回しても
彼女の姿は無くても



あのワゴンが
大きく揺れて
いたんです



見たい
気持ちを
抑える
ことが
できなくな
ってしまっ
て

俺は
他人がどんな
エッチをしてるの
か
すこく気になっ
てしまっ
たんです



窓にはスモークが
張られていて中は
よく見えなかったんですが

俺は
他人がどんな
エッチをしてるの
か
すこく気になっ
てしまっ
たんです

中から女の
呻くような声
聞こえてきて……

俺はドキドキしながら
目を凝らして中を
覗き込んだんです





俺は興奮
してました

う
このオバサン
すごい
上手いよ

ですが
凌辱されている
彼女の姿に



すげえ
見ろよ

ああ
見ないでえ

俺とのエッチじゃ
なかなか濡れな
かったのに

オバサンの
こんなに濡れてるよ

この時は
内股まで
ビショビショに
濡れていたん
です



たまんねえよ
オレ入れて
いいかな

ジャンケンで
決めよーぜ

見たい

俺が知らない
彼女の姿を

彼らに嫉妬
しながらも
そんなことを
思っていたんです



ドア越しなので
はっきりと聞こえた
わけじゃありません

彼女が
そんなことを
言うはずが
ないと思っ
ながらも

おレのも
しゃぶってくれよ

そう言った
ように聞こえて
しまったんです

んは...

ん



2本
同時に



彼女は自分から
しゃぶってる!!

激しくピストン運動
する彼女が
本当に俺の彼女なのか

信じられ
ませんでした



おお
すげえ

俺は怒りと同時に
今までに経験した
ことがない興奮を
感じたんです

ぐが

うぐ



ひいひい

出る...
オバサン

出るぞ

ああ
出して

ちようだい

ひいひい

いぐう〜

いぐう〜



あの清楚だった
彼女はまるで
別人でした

ひぎい

んああっ

よだれを垂らして
髪を振り乱し
よがり狂う姿は

んはあ



淫乱女
そのものでした

あふ

んはあ



精液まみれに
なりながら
凌辱されることを

彼女は心から
楽しんでたんです

ああっ

そんな彼女に

EP03
妻の陰部



ぐはああ

そして
彼女は白目をむきながら
体を痙攣させて
いつてしまっ
たんです



ごめんな
さい
お待たせ
しちゃって

彼女は
平然とした
顔で
戻ってきました



どこ行って
たの？

男たちに
ムリやり連れて
いかれたのか

それとも
彼女から進んで
行ったのかは
わかりません

トイレ！
探すのに
手間取っちゃっ
て

こんな女とは
婚約解消になるのが
普通だと思っんですが

こんないい女
二度と出会
えない気がして

どうしたら
いいのか今も
悩んでいます









無防備に体を
ごわくろ回されている
妻の姿に俺は興奮を
感じ始めていたんです

それに



オクサン
足ヲ広ゲテ

え

ダイジョウブ
気モチヨク
ナリマス

あ...



あ

あ

あ

ちよっと
あなた...
こんなの...
聞いてないわ



大胆にも男は
妻の足を大きく
開いて太毛の
マッサージを
始めたんです

い...
いいから
続けて
もらえよ



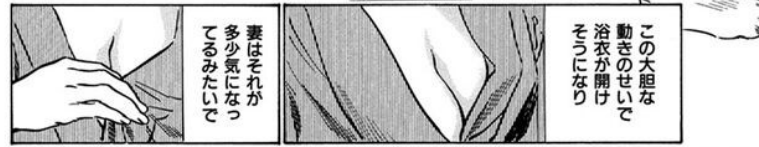
故意なのか
それともそついう
マッサージ方法なのか

けつこう
キツイン
ですわね

どう見ても俺には
不自然に押しつけている
ように見えたんです

妻は
それを
気にとめる
様子もなく

マッサージを
受け続けて
いました



この大胆な
動きのせいで
浴衣が開け
そうになり

妻はそれが
多少気になっ
てるみたいで



ですが男は淡淡と
そのマッサージを続けたんです

男から妻の
胸元がよく見えて
いたと思います





俺は妻も感じ始めているのが分かりました

俺は時々妻に助けを求めるような視線を送るのですが

俺は無視しました

もっと妻の姿を見ていたい

俺以外の男に感じていることに負い目を感じているのか

その気持ち良さを必死に抑えようとしている妻に俺の興奮はさらに高まっていたんです

こんな妻の姿を見るのはもちろん初めてでした



妻は恥ずかしそうにしながらも股間を押さえ男のマッサージを受け続けました

俺は沸き上がってくる期待感興奮の中

妻の姿を見続けたんです

その姿はとてモエロティックに見えて

俺の股間もすぐに反応していました

その時

彼も俺の妻を見て興奮してる

どうしまシタオクサン

いえなんでも

男の股間がふくらんでるのが分かったんです





俺は
よだれを垂れ流し
乱れまくっている妻に
今までに味わったことのない
興奮を感じていたんです



あな...
あ



男は乗ることなく
その激しいセックスは
1時間に達して
続いたんです

その間
妻は何度となく
イキまくりました

妻の喘ぎ声も
もう面にならない
ほど枯れ果て

とめどなく
あふれ出る愛液は
シャツまでぐっしょりと
濡らして

出...して...
出...して...
オクサン
イクヨ...



激しい男の腰使いに
妻は腰をくねらせ

んぐ
悶えまくって
いたんです

ひぎい

妻が
こんなに感じる
女だったなんて

それどころか
喜びを感じて
いたんです

妻が別の男に
犯され感じまくっ
てるというのに

俺は不思議と
ショックでは
ありませんでした

ひい
んはあ

ひぎい

EP04
良妻の淫らな陰部



EP03 / END





えり子…
なのかな？

いや…
なにバカな
ことを…

そんなこと
あるわけない
じゃないか

妻の性格からして
そんなこと出来るはず
ないと思っただんです

パイプは購入できたとしても

ネットですら裸体を晒すなんてこと
するはずない



そう思ったん
ですが…

頭の片隅に
ひよっとしたら
という気持ちも
ありました

それは
俺の中にある
願望だったの
かもしれま
せん



あの真面目な
妻が
もしこんなこと
してたらと思っ
ても興奮
したからです

それから
俺はこっそり
そのサイトに
アクセスしては
画像を見て
楽しんでたんです

あれは
妻ではないかと
疑う気持ちが
日々増していつ
かです



同窓会は
明日だったか？

でも
見れば見るほど
妻にしか見え
なくて…

20 21
27 28
同窓会

そうよ
夕方6時から
夕食は作って
おくから

ああ



それから…
家のパソコンの履歴から
あのパイプの購入先が
わかったんです
俺は自分の仕事部屋で
そのサイトを見たん
です

ははん
この通販で
買ったのか

そこはアダルトグッズを
販売しているサイト
でした

あのパイプも
載っていました

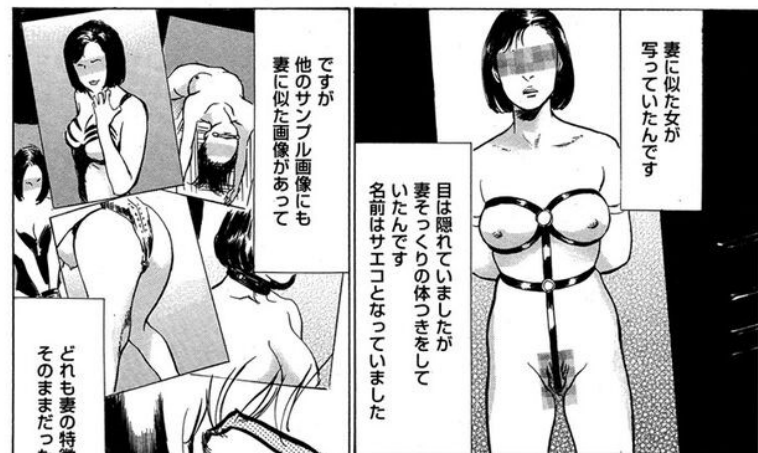


あいつ
こんなサイト
覗いてたのか

妻の秘めた変態性を
垣間見た感じがして
しばらくそのサイトを
眺めていたんです

拘束具のサンプルを
見ていた時でした

え！



妻に似た女が
写っていたんです

目は隠れていましたが
妻そっくりの体つきをして
いたんです
名前はサエコとなっていました

ですが
他のサンプル画像にも
妻に似た画像があつて

どれも妻の特徴
そのままだったんです

いや…
まさかな

はじめは
ありえない
と思っ
たんです



みんな定期的に集まろうって話も出てるのよ

俺はそれ以上は聞きませんでした

妻は嘘をついている

20人くらいは集まったかな

同窓会 どうだった? 楽しかったわよ

でもそれよりも俺の知らない妻がいたことに喜びを感じていました

もちろん妻に裏切られたという気持ちはありません



その画像を思い浮かべながら妻とのセックスは格別なものがありました

それに

ああ



数日後 新たな画像が掲載されました

ですがそれは気持ちの中だけに取めて

妻に気づかれないようにいつも通りでした



ああ 先入っちゃえよ

お風呂 もう沸いてるけど



明日の撮影ってなんだ!? 同窓会じゃないのか!

明日の撮影楽しみにしております。予定が変更したらメールください -END-

そこには 店長と名乗る人物からメールが入っていたんです

俺は隙を見て妻の携帯をこっそり覗いてみただけです



そして着いた先は

明らかに同窓会とは別の場所に向かっています

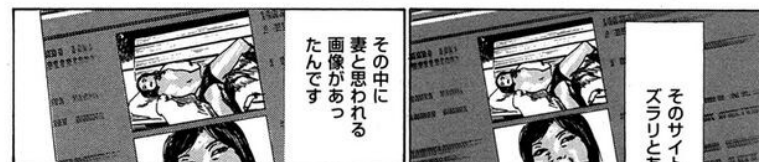
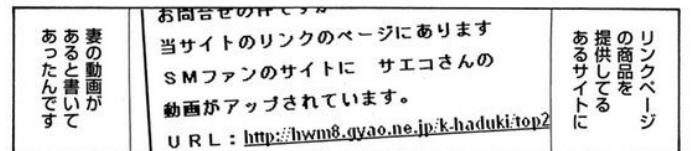
翌日 俺は妻の後をつけたんです



疑惑は確信へ変わりました

あのアタルトショップだったんです







俺のチ○コは
今までにない
くらいの
勃起をして
いたんです
そして

すんなり
入っちゃったよ
奥さん 普段も
アナル弄ってるん
だろ

でも
こんなに
身悶え
感じている
妻に

んがっはっ
んがっはっ
んがっはっ

俺以外の男に
責められて
こんなに感じ
てる妻に
嫉妬する
気持ちは
ありました

THE END



でも

なんとも
言えない
脱力感に
おそわれました
あれが俺の妻なのか
本番までしなかったのは
もしかして俺に挿を
立ててるのか!?

妻がああ男運に犯される姿を
思い浮かべただけで堪え難い
ものがありました

俺のチ○コは
動画を見終わった後でも
まだギンギンに
勃起してました
もっと
見たい...



妻のアソコには
モザイクが掛かって
たんですが
濡れているのが
確認できるくらい
薄いモザイク
だったんです
これが
欲しいん
だろ

恥ずかしい
ああ

妻はその責めに
体を震わせ
身をよじらせ
感じまくって
たんです

俺は今までに
味わったことのない
興奮を感じて
いました

奥さん
後ろの穴も
ヒクヒクしてるぜ

俺のも
しゃぶってくれよ

男はあるところか
アナルにまで
パイプを
挿入していっ
たんです
そんなに
欲しいのか
んぐっ
んぐっ

んぐっ
んぐっ



EP05 T大学のサセ子の噂



そんな妻の顔は
たまらなく
いい表情をして
いたんです

ぐああ

ああ
いいよえり子
きれいだ

ステキ
だよ

いぐ
いぐうう



ううう

ぐはあああ

俺は
その画面の中で
悶えまくるエロ女に
たっぷりとぶっかけて
やったんです



それから

妻は
変わら
ず
良妻を
演じ
俺は
こっそり
動画を
楽しむ
日々が
続きます

EP04 END



工事用の資材や重機が置かれていました

よお遅えーよ

そこは大学から一キロほど歩いた埋め立て地で

すいません



あの腰の振り方は確かにヤリマンだな

とにかくその女が好きですよ。一緒にいた先輩の友達とも次々とヤっちゃったらしいぜ



着いたぞ

俺はこの友人の親友ということと特別に許可されたんですが...



今夜のことは誰にも言うんじゃねーぞ

ホラこれ使えよ



お前かこいつの友達ってのは

はい上級生らしき人物が俺に声をかけてきて



そのことは友人にもナイショでしたエッチにはめちゃくちゃ興味があったし友人のサセ子の話も聞こえませんでした



なぜなら俺はまだ童貞だったからです

今すぐでもこの場から逃げ出した心境でした
本来やりたい盛りの学生なら夕夕でエッチできるなんてラッキーなことなんだろうけどでも俺はどっかってたんです



初めてだから特別に
お前を一番にやらせてやるよ



そんな俺を友人は誘ってくれたんですが断ったんです
でもついに断る理由が見つからなくなっ
てしまっ...



これは5年前に俺が実際に体験した話なんです。ウソのような話なので

信じられない方はどうぞ都市伝説だと思っ聞いて下さい



名前は木村勇次(仮名)とします。当時は東京の南部にあるT大学に通う学生でした

なあやっぱ今日はやめにしないか

当時学生の間で
ある噂があったんです



その噂とは大学の近くに誰でもエッチさせてくれるサセ子がいるというものでした

バカかお前今さらなに言ってるんだよ

サッカー部でもないお前の為にどんだけ先輩に頭下げたと思っつてんだよ



まさかお前ビビってるのか?

ゴム使うから大丈夫だって

でもよオタダでやらせる女ってほら...病気とか怖いじゃん



念を押すけど絶対誰にも言うなよ

それはサッカー部員の一部の人間だけが知る秘密でもう卒業した先輩が街で
ある女をナンパしたのがきっかけなんだそうです



心配するなって年食つてるけどそれなりに美人だからよ

実はその噂は本当だったんです
実際にこの友人はサセ子に一回相手をしてもらったそうなんです





腰を激しく動かしながら

勇次くんの固いわああ

彼女は人が変わってしまうほどエッチが好きだったんです

んぬあ

彼女は俺の手○○で満足でたんです

うう

びびい

あの埋め立て地のように周りを気にすることも時間を気にすることもなく

俺の体がビクビクと反応してしまっただけ気持ち良かったんです

初めは彼女のその姿に驚きました

彼女のマ○○の腫は蜜垂のようにならなくてその腫で俺の手○○はぐちゃぐちゃこねくり回されて

彼女も現場では出さない獣のような声で喘ぎまくったんです

うう
タ子さん

んがああ

快感に酔い痴れました



こんばんは
タ子さん

いらっしやい

俺は努力の甲斐あって彼女のアパートにちよくちよく通うようになったんです

やだビショ濡れじゃないの

突然降られちゃってさ

バカね早く乾かさないとカゼひいちゃうわ

俺は美家暮らしなので彼女のアパートに来る時はサークルの友人の家に泊まると嘘をつきました

普段の彼女はまったく別人のようでした

お風呂沸かすから入っちゃいなさい

やさしくて俺のことをすごく気遣ってくれて

それはまるで母親のような...いやそれ以上の...

今日は勇次くんの好きなカレー作ったのよ

彼女は昼間会社勤めをしてみました

そんな真面目な彼女がなんでサセ子なんかやってるのかわからなかったんです

あ...んあ

彼女は俺がこうしてアパートに通うようになってからもあの現場でサセ子を続けてたんです

もちろんサセ子をやってることは誰も知らないぞうです

んあ

ああ

ああ
ですがその疑問はすぐに解きました



彼女はサセ子を やめることを約束 してくれました

これで彼女は 俺だけのものに なった... そう思ってたんです

ところが 2週間ほどが過ぎ た頃から

え、今日はダメ なの？

今夜も 残業？



じゃあ明日は？

こんな風に 会えない日が 多くなってきたん です

すごくイヤな 予感がありました

まさかとは 思いながらも 不安で居ても立っ てもいられなくて あの埋め立て地に 行ってみたくて



あ.....

んが

うぐ

たまんねえ

そこには 5人の男と交わる 彼女がいたんです

すると あのフルドーザーから 声が聞こえてきた んです

おお すげえ

俺は そこへ近付いて 覗いたんです

おお



んがああああ

夕子さ

~~~~ん!

俺は彼女のAnalで イッてしまったんです



もう俺は 彼女の体無しでは いられなくなつて いました

夕子さん

頼むから他の男と エッチするのやめ てくれよ

もう 耐えられ ないんだよ

俺はそう彼女に 懇願したんです



わかったわ

勇次くんが そこまで 言うんなら

夕子さん



彼女は両穴を犯され続け  
ながら一時もチ○コを  
放さず

うおお

んがああ

体をガクガクと  
ケイレンさせながら  
何度もイキまくっ  
たんです

最後には中出しされて  
ザーメンまみれの姿で  
まだチ○コを求めてる  
彼女を見た時には

お願い  
挿れてえ——

もう俺の心は離れてい  
ました

現在 その場所は  
マンションが建っています

何度か彼女から電話が  
入ったんですが  
俺は 出ませんでした  
今はサセ子の噂は  
聞きません